

サービスの差別化

上海の介護事業に私が携わり、まもなく4年目を迎えます。その間、視察に来られる日系企業の方々に、必ずお話しすることがあります。

上海市の高齢者数は約300万人で、東京都の高齢者数とほぼ同数です。市内のベッド数は約16万床あり、介護職員は約5万人です。高齢者数に対して、ベッド・介護職員数が非常に少ないのが現状です。

しかし、ベッド数が足りないからといって、各施設が必ずしも満床であるわけではありません。また、訪問介護などの在宅サービス利用者が約30万人いるため、今後ますます加速していく少子高齢化に対して、施設数や介護職員数が、絶対的に不足していることは容易に想像できます。これらの問題解決に向け、上海市は様々な対策を毎年実施しています。

例えば医療介護ヘルパーの技能研修が2016年から実施されています。これは市による補助金政策として実施されているもので、20年までに10万人の輩出を目標としています。

また上海市民政局は「18年高齢者サービス実施項目及び高齢者向け住環境社区建設試行拠点」に関する事業計画を発表しました。具体的には①

高齢者向け社区総合センター
①74カ所、②社区デイサービス83カ所、③高齢者食事拠点70カ所を設立することが示されており、着実に整備が進んでいます。

しかし、これらの高齢者施設におけるサービス内容は、日系企業側からみると、どの施設もさほど変わりがないような印象を受けます。

日本は十数年先行して介護やきめ細やかな接遇、そして信頼性の高い介護用品とその効果的利用方法などのノウハウを培ってきました。中国の

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理 稲田義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日系介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。